

# 秋の観光シーズン

## 旅行者を温かく迎えますよう

観光地日光は、日光国立公園の中心地であり、美しい自然やすぐれた文化財などの観光資源に恵まれ、毎年多くの人々が安らぎを求めて訪れています。

昨年、日光を訪れた観光客は六百七十万人を数えています。この中でも、十月の紅葉シーズンには全体の一六・パーセントに当たる約百万人が訪れています。この人たちを温かく迎えることは、私たち日光市民の使命でもあります。

### 水不足を解消

#### 所野に井戸ポンプ完成

「わたくしたち日光市民は旅行者を温かく迎えますよう」という市民憲章の実践活動をいっそう活発に実施し、やさしい心とやさし

い言葉で観光客を迎えようではありませんか。観光客に携わる人はもちろん、市民の一人ひとりが日光を訪れた

観光客に「もう一度日光に行つてみたい」と言われるような心づかいで接したいと思ひます。みなさんも旅行をして、その地

十月一日から、赤い羽根の募金が始まります。

たすけあいの心——お互いに困ったときはたすけあい、住みよい地域社会をつくるための活動に進んで参加しよう——という一人ひとりのやさしさと、たすけあいの心を表わしたものが、それが赤い羽根です。

共同募金運動は戦後間もない昭和二十二年に産声を上げて以来、今年で三十五回目を迎えます。そ

### 共同募金運動

#### やさしさを隣人に

#### あなたの胸に赤い羽根を!

の間に寄せられた善意のお金は約千七百四十二億円にも上り、老人福祉、心身障害者福祉、児童福祉、地域福祉などのいろいろな社会福祉の助成、障害者等の福祉などに役立てられました。

市でも三百二十万円の寄付金が集まり、このうち百四十三万円が市内の母子家庭援助、社会福祉団体の助成、障害者等の福祉などに役立てられました。

共同募金の運動母体である社会福祉法人中央共同募金会では、今年も目標達成を目指してみなさんの協力を呼びかけています。

やさしさを隣人に——今年もあなたの胸に赤い羽根を!

方の特徴を生かした温かい歓迎を受けたことは、旅の思い出としていつまでも忘れることのできないものです。

観光客は、日常生活を離れて楽しい余暇を過ごすために訪れるのですから、温かく迎え、温かく送る気持ちを忘れずに接したいものです。

査を兼ねた井戸を掘り、かなりの水量を確保できる見通しがついたため、今年新たに一本を追加掘削し、水の安定給水を図ることにしたものです。

このポンプが完成すると、日量千四百リットルの水が確保されることになり各家庭用の水はもちろん、消火用水としても十分利用できるため、地域住民の期待は大きいようです。

### 支所・出張所で

#### できます

#### 学校施設利用の申請、許可

「学校の体育館を利用するとき、許可を受けるのにいちいち教育委員会まで足を運ばないと許可がもらえない」などの苦情が市民から出されてきました。市教育委員会社会教育課では、これら面倒な手続きを解消するため、十月から利用する分についての申請、許可の手続きを、各支所、出張所でも行うことになりました。

継承するの願いからであった。欠無庵は漸く庶民との接触を深めるにつれ、峰行の霊地としてよりは、むしろ庶民にとって親しみのある地藏信仰の霊場に変遷し、文化文政期(一八〇〇年代初め)には、高徳石の堂舎が建てられ、水盤石その他の奉獻が相つぎ、地元民はもちろん、折から日光参詣の江戸、大阪の町人の来詣もみるにいたつた。

「欠無」という奇異な語意にちなんで、欠無庵の首のない地藏尊は秘仏とされて殊さらの靈験を尊ばれ、あるいは「隠けなし地藏」「懸けなし地藏」の民話が語り伝えられるなど、庶民の朴素な心情につつまれた地藏尊である。

明治初年、戊辰戦争の兵火を蒙つて竜門寺が焼失して廃せられ、更に明治末年の失火によって欠無庵が灰燼に帰して以来、境内荒廃し、蔓草のみ生い茂るままとなつていたが、昭和五十年、地元所野自治会と市教育委員会の手で再建された。

このかけなし地藏尊にかけられている扁額は、昭和五十五年八月、所野の小幡圭助さんが並木板に刻字して寄贈したものである。

昭和四十九年六月指定、第二十六号  
所在地 日光市所野